様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　７ 年　 ７ 月　 ６ 日現在

機関番号：２３３０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2024
課題番号：１９Ｋ１１０３８

研究課題名（和文）虐待や育児困難に悩む母へのペアレンティングプログラムを活用した継続的支援の評価

研究課題名（英文）Evaluation of continuous support using parenting program for mothers who suffer from child rearing difficulties and abuse

研究代表者
西村　真実子（NISHIMURA, Mamiko）

石川県立看護大学・看護学部・名誉教授

研究者番号：５０１３５０９２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：子ども虐待予防には、妊娠期からの継続支援が重要。これまで妊婦・乳児の母・幼児の母・学童/思春期児童の母への「Nobody’s Perfectペアレンティングプログラム(以下NP) またはNP手法活用のグループ支援及びフォローアップ支援及び評価研究を実施してきた。
本研究では、これらグループに複数回参加の母が学童・思春期NPで話した内容、終了後のアンケート結果から、子の年齢に伴い生じる悩み等を「安心して話せる」「一人一人のエピソード聞いてるだけでパワーがもらえる」「悩みは自分だけでない」と思う等のグループの良さを感じていることがわかった。子育て・生活状況や母の精神状態の改善になっていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
現在の子ども虐待予防支援（または親子関係形成支援）は、妊娠期から実施されている。しかし個別支援が中心であり、同じ悩みを持つ親同士の仲間づくりをもめざしたグループ支援や、ネウボラのような同一支援者による支援は極めて少ない。また、親との信頼関係樹立をめざし「短期間に集中して会う」等の工夫が施された機会設定は稀で、親子のリスクの程度にもよるが数週間や数か月以上の間隔で会うということが多い。
本研究やこれまでの我々の研究結果から、乳児期～思春期に渡る親への継続的なグループ支援、安心して相談できる人・場の存在が子どもの成長に伴って生じる親子関係等の悩みや、親の不安・葛藤の軽減に有効であることがわかった。

研究成果の概要（英文）：To prevent child abuse, it is important to provide continuous support from the difficult period of child rearing. We have conducted evaluation research on group support using the "Nobody's Perfect Parenting Program (NP)" and NP methods, as well as follow-up support for mothers who participated in these programs, targeting pregnant women, mothers of infants, mothers of toddlers, and school-age and adolescent mothers.
In this study, the contents of discussions in school-age/adolescent NP sessions with mothers who had continued to participate in groups and questionnaire surveys after the sessions revealed effects such as "I can talk with peace of mind," "I can do my best because of the group," and "I can get positive information." Through group activities, mothers gain a sense of relief that "I'm not the only one who is worried," catharsis, and awareness of reality, which are thought to prevent deterioration of child rearing and living conditions and improve the mental state of mothers.

研究分野：小児看護学

キーワード：子育て　母親　グループ　支援　不安　困難　子ども虐待　ペアレンティングプログラム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）育児不安・困難等の悩みを持つ母を対象とした我々の継続的グループ支援が「虐待未然防止のための妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援」として有効だと考えた！

我々が 2006 年度から実施してきた「気になる」妊婦・乳幼児の母等を対象とした継続的なグループ支援が、本研究の申請当初 2018 年度前後に進められていた「虐待未然防止のための妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援」をより実効性あるものにする一方法として、有効だと考えた。

①　我々の継続的グループ支援とは（図 1）

妊婦・乳児の母・幼児の母を対象とした「Nobody's Perfect ペアレンティングプログラム(以下 NP) または NP 手法活用のグループ支援」と、これらに参加経験のある母へのフォローアップグループ支援から構成される。フォローアップグループ支援は 2 種類ある。一つは、幼児の母グループ終了後に同メンバーで年 3 回実施するグループ、二つ目は、その後に、これまでに NP 参加経験のある新たなメンバーで年 5 回実施するもの（どろっぷいんさろん）。どろっぷいんさろんは、現在『学童/思春期児童の母を対象とした NP』として実施している。

本研究では、以上のグループ支援に複数回参加した母が『どろっぷいんさろん→現在は学童/思春期児童の母を対象とした NP』で話した内容を研究対象としている。

図 1. 本研究の「継続的グループ支援」における５つのグループ

②各グループ支援の有効性：評価研究の結果

これまで、これらのグループ支援個々の効果をみる評価研究を行なってきた(平成 18～20 年度・平成 21～23 年度、平成 27～30 年度の科研費基盤研究 C)。NP やフォローアップグループ支援が育児不安や困難が強い母の子育て自己効力感を上げ、うつ傾向を改善すること、また「育児困難」が NP 前後と 1 か月後に改善すること(西村ら;2018.2019,2010,2015,2016,2018)を、またフォローアップグループでメンバーへの「安心と信頼」「被受容感」が高まること(米田ら；2010)を、さらに妊婦へのグループ支援が「実母との関係」や「母親役割獲得に関する不安」を下げることを示した(伊達岡,西村ら;2017)。

②　NP プログラムとは/NP 手法とは

NP は、母 12 名ほどに 1 回 2 時間のセッションを　週に 1 回、6 週連続で行うプログラム。NP 手法とは、参加者が安心できる環境の中で子育て等の悩み経験や考えを共有することを通して、各自がエンパワーされたり、自分に合った子育てのやり方・考えを獲得したり、自分を客観視したり、さらにはサポートしあう仲間になるよう、ファシリテーターがセッションを計画・実施する等の手法をいう。

（２）我々の継続的グループ支援が有効だと考えた理由

①本グループ支援において「母同士が安心して相談できる場/関係」「母の仲間づくり」を行いやすく、またそのような「人の存在」や「場」自体が母の精神的負担等を軽減すると考えたから

育児困難等の悩みを他者に話すのは容易でないので、個別支援と並行して、同じ悩みをもつ者同士の自助グループ的な支援も重要となる。しかし、現在の子ども虐待予防支援（または親子関係形成支援）や「切れ目のない支援」は、「気になる」親子や家族に対して妊娠期から継続的に実施されているが、個別支援が中心である。また、同じ悩みを持つ親同士の仲間づくりに有効なグループ支援は少なく、現状のグループ支援においても「短期間に親と集中して会う」等の信頼関係樹立に有効な工夫が施された機会設定も少ないと思われる。

本グループ支援は NP 手法によりこれらの課題に全て対応しているので、母が安心して相談できる場として有効であると考えた。

②本グループ支援は子どもの成長に伴って生じる悩みについても共有する場になるから

子どもが小学生、中学生と成長していくに伴って親子関係に新たな局面が生じる。子どもの友達関係や子どもとの関わりの悩み、不登校、進学等について、気心の知れた仲間と困り事経験や情報を共有したいというニーズが高まってくる。しかし現状では、そのような支援は極めて少ない。本グループ支援は、これらの課題にも対応できる。

２．研究の目的

我々がこれまでに実施してきた「育児不安や育児困難のある妊婦や乳幼児の母への NP プログラムを活用したグループ支援」に継続して参加してきた母が認識するグループの良さについて明らかにする。

３．研究の方法

（１）対象

①5 つのグループ支援のうち 2 つ以上に参加した母（以下、継続参加の母）が「学童・思春期児童の母への NP」で語った内容（セッション実施中に聞き取った逐語録）

②継続参加の母親が「学童・思春期児童の母への NP」の最終回セッション終了時のアンケート(一人一言用紙、自由記載)に答えた内容

（２）分析方法

上記の２つの内容の中で「母がグループ支援に継続して参加してきたことがもたらした効果」を示している部分を抜き出し、その内容にコード（名前）を付し、カテゴリー化した。コード化・カテゴリー化に際しては、grouded theory approach の手法を参考にした。

４．研究成果

（１）対象となった「学童・思春期児童の母への NP（旧名：どろっぷいんさろんまたは Aka ’ aka サロン）」

分析対象となった「学童・思春期児童の母への NP」は、2022 年度(8/23,9/13,10/4,11/8,12/20 計 5 回実施、継続参加の母 8 名)、2023 年度(8/18,9/15,10/6,11/10,12/1 計 5 回実施、継続参加の母 12 名)、2024 年度(6/15,8/3,9/28,12/21,2/1 計 5 回、継続参加の母 8 名)のプログラムである。

（２）継続参加した母が認識しているグループの良さ

コードは「」、カテゴリーは『』で示し、コード内容を示す実際の記録内容の代表例を斜体で示した。

継続参加した母がグループに感じていたことは、グループは『なんでも安心して話せる』場であり、子どもの友達関係や不登校等「子どもが大きくなっても悩みはつきない」のでそれを気兼ねなく話せる場が必要だと感じていた。また、グループで話された「一人一人のエピソードからパワーがもらえる」たり、「子育てを振り返り長いスパンで考え」、『現状を吟味する一つのきっかけになる』という点も良さであると話していた。さらに、久しぶりに会うメンバーの顔を見ただけで、話を聞いているだけでパワーをもらえたり、「悩んでいるのは自分だけでない」と思えることもグループを継続する要因になっていると思われた。

以下に、コードとカテゴリー、およびその内容を示す記録内容の代表例を示す。

・『なんでも安心して話せる』

「一歩踏み込んで聞ける」

一歩踏み込んで聞くと、みんないろいろあって。支援センターでは聞けないこと。それがここのいいところ。（2023.1 回目母 H）

「安心して話せる」

子どもの不登校のこと、色々話せてよかった（2023.3 回目母 K）

みんないろいろ聴いてくれて、初めて他の人にいじめられたこと、高校をさぼってたことを話したいろいろ吐き出してすっきりした（2023.4 回目母 M）　（2023.3 回目母 S）

久しぶりに心の底から笑った。楽しいって思えた（2024.1 回目母 K）

・「子どもが大きくなっても悩みはつきないのでグループが必要」

長男の悩みは大きくなっても尽きないと実感した。（2023.2 回目母 My）。

一緒にいてもストレス、夜中に家を出られてもストレス。いないと困る。尽きない悩み（2022.2 回目母 Ma）

・「一人一人のエピソードがパワーをもらえる」

しゃべらなくても（聞いてるだけで）パワーがもらえる（2023.2 回目母 M）。

一人一人のエピソードは同じものがない。それを聞けて貴重（2023.2 回目母 H）

・「子育てを振り返って長いスパンで考えられる」

子どもが小さい頃過干渉だった。できることはしてあげたいと思ってた。小中では新たな悩みがあったし、高校でも勉強させすぎた。県外に出た娘はいろいろ思うが、まぁお金の悩みだけするようにしてるが、高校受験生の娘のこともあって。。でも今日ここに来て気持ちが楽になった。色のある世界になった。（2023.1 回目母 Y）

子育てを長いスパンでみれている（2022.1 回目母 Ko）

・『現状を吟味するきっかけになる』

「いつも話題にしている長男のこと、最近しっかり考えなきゃと思っている」

（2023.3 回目母 Ma〉

「悩みがなんでそうなのかを考えるきっかけになる」

なんでそうなんかを考えるきっかけにいつもなる。普段もやもやしてるだけなのに書くだけでも進んだ気がする。半歩進んだ。自分の引き出し作っていきたい。（2023.2 回目母 Yo）

・「悩んでいるのは自分だけでない」

来るだけ顔を見るだけで楽しみ。解決策はないだろうけど、みんな長年同じことを悩んでいると知るだけで楽になった。励みになる（2023.2 回目母 Mi）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 西村真実子
２．発表標題 妊娠期・乳児期・幼児期・思春期における継続的なグループ支援の実践と評価~Parenting Programの手法を用いて～
３．学会等名 日本子ども虐待防止学会第26回学術集会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

―

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	米田　昌代 (YONEDA Masayo) (80326082)	石川県立看護大学・看護学部・教授 (23302)	
研究分担者	金谷　雅代（東雅代） (KANAYA Masayo) (80457887)	金城大学・看護学部・准教授 (23302)	
研究分担者	千原　裕香 (CHIHARA Yuka) (50738408)	石川県立看護大学・看護学部・講師 (23302)	
研究分担者	曽山　小織 (SOYAMA Saori) (10405061)	石川県立看護大学・看護学部・講師 (23302)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関